



Women And Men

WAM

通信

特集 女もつらいけど、男もつらい？

- 01-02 男女共同参画週間記念講演会報告
データで見る茨木市民の「男女共同参画」
- 03-04 インタビュー
～男性にとっての男女共同参画とは？～
- 05 デートDV啓発パネル展
川端康成文学館×ローズWAM 連携コーナー
- 06 ローズWAMまつり、喫茶ぱーとなー



ローズWAM 名前の由来
ローズは茨木市花の「バラ」を表し、
WAMはWomen And Menの
頭文字をとったものです。

回
覧



茨木市・茨木市立男女共生センターローズWAM

男女共同参画週間関連講座

6月18日(日) ワムホール

「夢に向かって落語に生きる」

落語家 露の都さん



「ワムワムらくご」でおなじみの露の都さんの講座が開催されました。女性落語家第1号となった都さんは、昭和49年に入門し、現在20人を超える上方女性落語家の先頭を切って活躍中です。講座では、露の五郎(当時)師匠に入門するまでの生い立ち、「遠慮はするな、気兼ねはせえ」「先繰り機転」「捨て目捨て耳をかかせる」などの師匠の教えを守りながら内弟子修行をしたことから、ご自身の結婚、離婚、再婚、子育ての苦労談まで、都さんのこれまでの半生をおもしろおかしく、時にはほろりとしながらお話しいただきました。都さんはいつもの明るく楽しい調子で親しく受講者に語りかけられ、会場は何度も笑いに包まれました。

最後に高座が登場、仕切り直して、男女共同参画と高齢化社会をテーマにした落語「ハルちゃん」が披露されました。

★ワムワムらくご

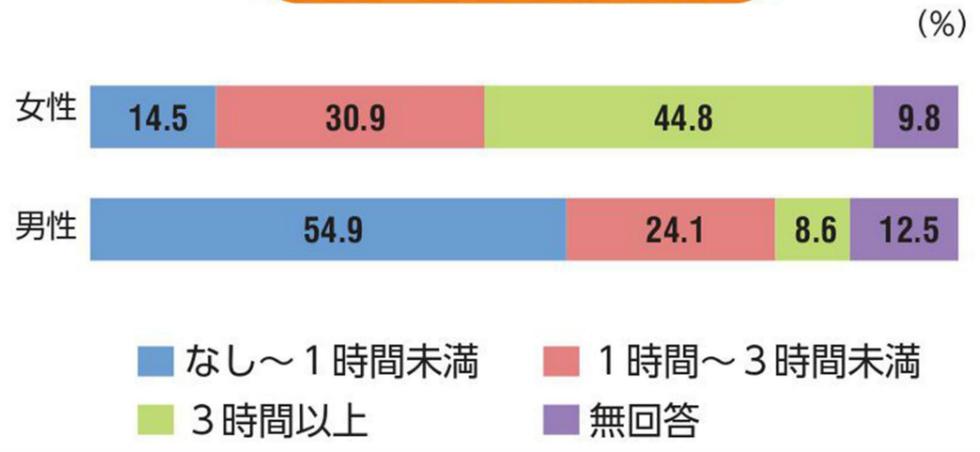
毎月1回第2日曜の午後2時から、ローズWAM地下2階のワムホールで開催。小学生以上ならどなたでも入場できます。当日受付のみ(先着180人)、入場料500円、一時保育なし。

データで見る

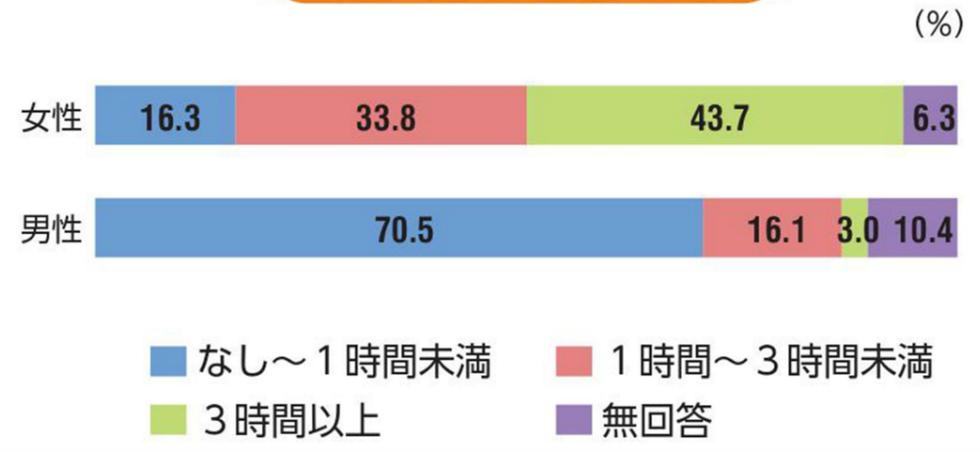
茨木市民の「男女共同参画」

男女共同参画に関する意識や実態について、20歳以上の市民1018人から回答を得たアンケート結果の一部をご紹介します。

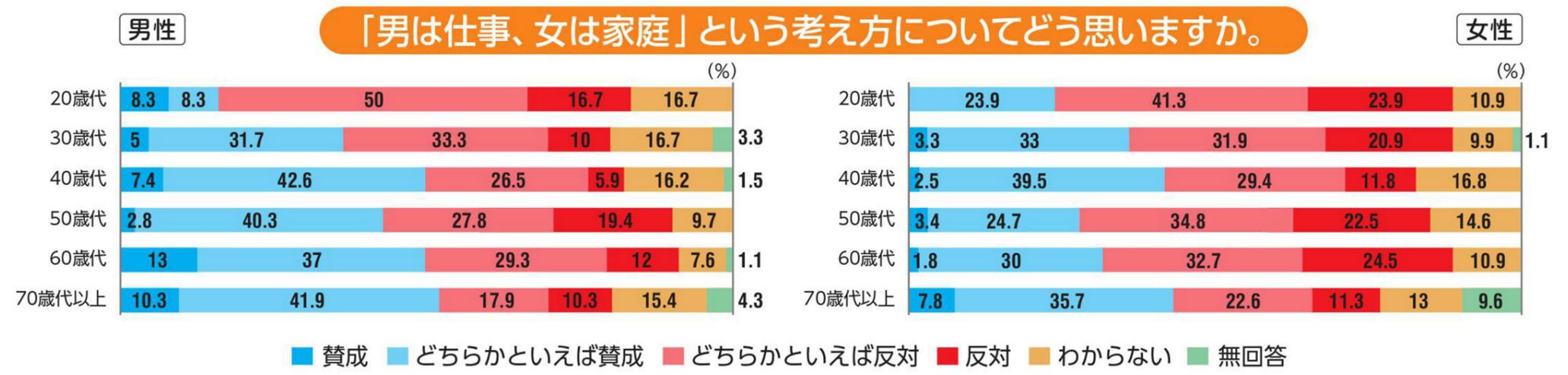
休日の家事時間



平日の家事時間



「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。



女もつらいけど 男もつらい？

～男性にとっての男女共同参画とは～

男女共同参画というと「女性のためのもの」と思われがちですが女性だけでなく男性にとっても意義があるのではないのでしょうか。

男性にとって男女共同参画とは？女性も男性も生きやすい社会になるために、私たちができることとは？

大学院で男性学を研究しながらホワイトトリボンキャンペーン・ジャパンの運営委員を務める尾崎俊也さんと、ファザーリング・ジャパン関西理事長の篠田厚志さんにお話を伺いました。

(聞き手：ローズWAM所長 藤井紫津子)

——ご自身の活動を始めたきっかけをお聞きしたいのですが。

尾崎 小さい時から、なんで女の人ばかり家事労働をしているんだろう？という疑問みたいなものがあったって、自分も男の側でなんでこうしてしまうんだろう？とか、ときとして男性はなぜ暴力的になってしまうんだろう？というのが知りたくてというのが大きいです。

篠田 子どもには自分以上に物事を知ったり体験したり、いろんなきつかけに触れさせてあげたいと思っていて、そのためには父親自身がいろんなことを知っていたりとか、興味を持っているネットワークに接続できる状態にあることが必要かなと思って。そのネットワークとの繋がりがそのものが仕事になったという感じですね。

男性から見た「女性の活躍」

——「女性の活躍」とよく言われていますが、男性はそれをどう感じているのでしょうか。

篠田 周りにそれを肯定的に受けとめている女性が多くなっているのが現実なんですけど(笑)。男性は漠然と、雇用や給料というような、男性であるがゆえに守られてきたものが女性の活躍で奪われていってしまうというようなあせりや危機感があるような気がしていますね。

尾崎 「女性の活躍」というと、働く女性が増えれば良いという一方で、家事も子育てもというメッセージもあって、そういうのって女性にとって三重

苦も四重苦も強いてるみたいな状況がありますよね。一方で男性は家事にちよつと参加すれば結構ほめたえられる。それって非対称に負担がかかっているっておかしいなと思ってます。食べて生活してという流れのなかに、やらなければならぬことがあるのは男も女も関係ないことだと思ふので。女性だけに活躍しろとか、逆に言うとなら男性だけに働けっていうのもおかしい話だなと考えています。

現代男性の生きづらさは？

——私も女性として管理職としてやっていて、さらに活躍、と言われるとすごく荷が重くなって感じることもあるんですよ。男性は当たり前のように「働く」ということを求められてきましてけど、男性として生きてこられてしんどさっていうのは感じますか。

尾崎 なんていうんですかね…人間としてしんどいことはありますけど、男だからしんどいというのははっきり言い切れないし、わからないです。

——とはいえ、男性の自殺者は女性と比べて2.5倍だったり、男性として生きづらさ、働くことへの過度の負担があるように思ふのですが。

尾崎 男性は働くほかに選択肢がないんですよね。いい学校に行つていい会社に入って…というような人生のレールっていうんですかね、疑う機会がほとんどないんですよ、会社や役所で働くということ。

——女性は、結婚とか出産とか、そのほかにもいろんなライフステージの変化に応じてそれぞれ選択を求められるんですけど、男性はそれがありません。働くことは当然として求められて、そのうえ子育ても…。最近の男性は本当にしんどいんじゃないでしょうか。

篠田 どうでしょうね。ファザーリング・ジャパン関西に関わっている人でも平日は終電で家に帰る、平日はいつか子育てしません、仕事は忙しいけど週末2日は子育てを頑張ります！みたいな人もいます。こんなふうに分岐らしくメリハリを作つていければもっと楽になれるのになと思いますね。

——なるほど、今ある現状の中でも変えていくことができそうですね。でもやっぱり仕事を優先させないといけない時もあったりして、そこらへんをパートナーとよく話し合つて共有する必要がありますね。

若い世代に向けて伝えたいこと

篠田 茨木市の資料(前ページ参照)を見せてもらつて思ったんですけど、「男は仕事、女は家庭」という考え(性別役割分担意識)に対しての賛成反対は五分五分で、男性に働くことを求めている女性も案外多いという印象がありますね。

——そうなんです。特に40代の女性にその意見が多いんです。20代となると賛成が少なくて反対が多いんですね。尾崎さんの周りの女子学生の意識はどうですか？自分のライフプランのビ



しのだ あつし
篠田 厚志さん

1980年枚方市生まれ。三児の父。12年間勤めた大阪府庁を退職し、NPOの世界へ。父親の子育てはやれと言われてやるものじゃなく、できる仕組みを作ることが大切と考え、ファザーリング・ジャパン関西の理事長を務める。



おさき しんや
尾崎 俊也さん

1989年鳥取市生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程在籍中。一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン運営委員。男性学の視点から、男性性と暴力の関係についての研究に従事している。2015年9月から半年間、カナダ・トロント大学に留学し、DV加害者更生プログラムについて学んだ。

ファザーリング・ジャパン関西

「笑ってるパパがええやん！」を合言葉に、笑っている父親が増える世の中の実現を目指して、父親向けの啓発支援事業や子育てイベント、仕事と子育ての両立を実現するためのワークライフバランスセミナーや育ボスセミナーなどの企業研修を実施するほか、次世代向けライフデザインセミナーの実施。さらには父親のダイバーシティ体験事業などを実施。「父親の子育てをやバクする！」をミッションに、父親が子育てに関わりたくなる仕掛けづくりを、企業や自治体とともに行う。



ホワイトリボンキャンペーン

男性が主体的に自分自身の課題として女性に対する暴力に対して声をあげる国際的な啓発運動。その発祥地はカナダで、英語圏を中心に60か国以上に広がっている。日本においてもホワイトリボンキャンペーン・ジャパンとして2016年に一般社団法人化し、暴力を振るわず他者と対等な関係を築く「フェアメン」を増やすためにSNSでの情報発信、チャリティイベント、シンポジウムなどを行っている。11月23日にクレオ大阪中央館でデパートDV予防プログラムに関するシンポジウムイベントを開催。



尾崎 いわゆる男らしく女らしく生きたい人はそれでいいと思うし、その逆があつてもいいと思うんですけど、社会の中で流れが作られた形でそれに従わなきゃいけないということ自体が問題で、そこを変えていかなきゃいけないですね。ただ社会を変えることは個人では非常に難しく。でも男らしく

——最後に、女性も男性も生きやすい世の中にするために私たちができるとは何なんでしょうかと。

女性も男性も生きやすい社会にするには？

篠田 ほんとに空想でいいんですよ。でもみんな同じ方向にしか向けていなくて、想像力も型にはまってしまっているのが現状です。ひとりひとり全然違う生き方ができることを知らないし、それに気づく機会もない。いろんな生き方や働き方があるということを見せてあげないといけないと思いますね。

——若い段階で自分のライフデザインをどう描くかを考えることって、空想の世界だとはいえ必要ですよ。

尾崎 結婚して子どもを欲しいっていう同級生は多かったですね。総合職で就職したいって女子も少なくなかったんですけど、そこで生き残っていくのはすごくしんどいというのにも気づいて。：。大学に入る前に男女ともに働くことの現実を知っておかなければならないと思います。

ジョンみたいなのはあるんでしょうか。

インタビューを終えて

ローズWAM所長 藤井 紫津子

共働き世帯が増加しているのに、性別による固定的な役割分担がまだまだ根深い日本。家事や育児・介護などの負担は相変わらず女性に偏ったまま「さらに女性の活躍を」と言われても“女はつらい”。一方、男性はというと、「働く」という役割を過度に求められ、長時間労働は当たり前で、さらに育児・介護もとなると、“男もつらい”。

この状況の改善について、お二人からキーワードとして出てきたのは「自分らしさ」と「ダイバーシティ(多様性)」。

自分らしく生きるためには、「自分がどうありたいのか」が必要です。そして、「どうありたいか」は、たくさんの経験を通して生まれてきます。つまり、経験が多様であればあるほど可能性は広がり、「自分らしく」生きることができます。

「女性の活躍推進」を「責任や役割が増えて大変」ととらえるより、「女性も男性も自分の生き方を主体的に考え、選択肢を増やすチャンス」ととらえることで、性別にとられることなく誰もが活躍できるダイバーシティ社会になるのではないかと思います。

なくとも、個人の考え方のレベルでは「誰かに共感してもらえた」というような小さなことをポジティブに認めることで、変わっていくのかなと思っています。

篠田 「自分らしさ」が意識として抜けていることが多いんですよ。男らしさとか女らしさというのは、その人の特徴やスキルのなかにあるはずなんです。個々のジェンダーよりもダイバーシティ(多様性)というのを意識できるような世の中にしていかないとけないなというふうに思いますね。

それには、自分をマイノリティ化すること。例えば海外に行つて、違う価値観や違う肌の色、違う生き方をしてる人がそこにおいて、自分もそのひとりになって違いに触れ合うような機会を作っていくことが、自分たちの理解

を促進していくことにつながるのではないかなと僕は思っています。

尾崎 うまく結びつくかわかんないんですけど：僕はカナダに半年くらいいたことがあつて、ちよつと英語の発音がおかしいことで笑われて悔しく思つたこともありました。ただ日本で似たようなことを無意識にしているかもしれないなって：。それって自分が男性として生きてきて、女性を感じてるしんどさみたいなものを理論的には想像できても、本当の意味でわかってなかったんじゃないかと。やっぱり自分が少数派になつてそんな経験をする、誰がどういふ状況で苦しんでいるか気づくことができるんじゃないかなと思



2017年8月17日 ローズWAMにて

デートDV啓発パネル展示

あなたもわたしも大切に



～好きだからこそ、考えてみよう～

夫・妻・パートナーなど親密な間柄での暴力をDV(ドメスティック・バイオレンス)と言いますが、特に交際のパートナー間における暴力のことを「デートDV」と呼びます。期間中、デートDVについてパネルでわかりやすく展示します。お子さん、お孫さんにもぜひお声かけください。

展示期間：11/12(日)～11/25(土)
※火曜定休

場 所：1階エントランス・
ネットワークギャラリー前
時 間：午前9時～午後7時

「パープルポンポン」手づくりコーナー設置
(数量限定・先着順)

11/ 9(木) 正午～午後1時
11/17(金) 午後4時～5時



毎年11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間です。



1階 ネットワークギャラリー

川端康成文学館×ローズWAM 連携コーナー

●川端康成文学館

茨木市上中条2-11-25
TEL 072-625-5978
開館 午前9時～午後5時
(火曜・祝日の翌日は休館)



茨木市で3歳から旧制茨木中学校(現・府立茨木高校)卒業時まで過ごした川端康成。その縁で川端文学に親しむ拠点として昭和60年(1985年)に文学館が設立されました。この館を多くの方に知ってもらおうと、1階ネットワークギャラリーに連携コーナーをつくりました。川端文学における女性・女性像から文学を読む視点をパネルで紹介しています。



第18回 **ローズWAMまつり**

平成30年(2018年)

入場無料

2/3・4
土 日

ここローズWAMで新しい私に

3(土)

人形劇 10:30~11:30

※2歳未満は保護者のひざの上で鑑賞、手話通訳あり

人形劇団クラルテ

- 「ねえ とうさん」「だってだってのおばあさん」

講演会 14:00~16:30

※小学生以上対象、手話通訳あり、一時保育あり(要予約)

「豊かな未来のために

～女性と子どもの現状から私たちができる事を考えよう～

- 大内裕和さん(中京大学国際教養学部教授) 講演「大学生の未来」
- 徳丸ゆき子さん(大阪子どもの貧困アクショングループCPA代表) 講演「女性と子どもの未来」
- シンポジウム「私たちにできる事は」

4(日)

9:30~16:30

- ワークショップ
- 軽食・デザート販売
- 発表
- 商店街コラボ ワムワム★ラリー
- 新品回収

申込・お問い合わせ ローズWAM

TEL: 072 (620) 9920

FAX: 072 (620) 9921

和太鼓演奏 16:45~17:30

大阪府立芥川高等学校 和太鼓部

要申込

人形劇、講演会は申込みが必要です。

1/5(金) 9:00~窓口、電話またはFAXで受付(HPからダウンロード)。



喫茶ぱーとなー

ローズWAMの1階より漂う美味しそうな香り
お友達との楽しい時間、おひとりでのリラックスタイムに

ケーキセット

¥550



ふわふわのシフォンケーキ

ホットサンド

¥390



外はさくさく中はあつあつ

ナポリタン

¥520



懐かしいお味

白玉ぜんざい

¥350



白玉がとろ〜り

美味しくて、リーズナブルなメニューを豊富にご用意しております。
ぜひ、ご利用ください!

営業時間

午前10時~午後5時

(ラストオーダー 午後4時30分)

☎072-620-9929

各お部屋まで
出前OK!

(ワムホールは除く)

WAM相談

予約電話番号 072-620-9920 ●相談無料 ●一時保育あり(有料・要予約) ●いずれも火曜・日曜・祝日は除く

女性面接相談(要予約)	月曜日～土曜日 午前10時～午後4時	女性法律相談 (女性のみ・要予約)	第3木・土曜日 午前9時30分～ 午後0時30分
女性電話相談	TEL 621-0892 月曜日～土曜日 午前10時～午後4時	仕事なんでも相談	最終木曜日 午後1時～4時 (平成29年12月は第3木曜日)
男性のための電話相談	TEL 620-9920 第3・4水曜日 午後6時30分～9時30分 (※平成29年12月は第2・3水曜日 平成30年 3月は第2・4水曜日)	おしごとでお悩みの 女性への個別相談 (女性のみ・要予約)	偶数月：第2金曜日 奇数月：第2土曜日 午前9時30分～ 午後0時30分

ローズWAMを活用しよう

※授乳室あります。

★会議室・ホールを借りる

予約受付時間：午前9時～午後6時30分(火曜日を除く)
利用時間：午前9時～午後9時30分
180人収容のホール、会議室、和室、料理工房の貸し出しをしています。要予約。毎月初日に抽選。以後、先着順受付。申込方法等詳しくはお問い合わせください。

★印刷工房を利用する

午前9時～午後7時(火曜日を除く)
事前に講習会の受講が必要です。
印刷機材利用の実費として、利用料が必要です。

★ネットワークギャラリーを利用する

午前9時～午後7時(火曜日を除く)
○図書の見覧、図書・啓発DVDの貸し出し(1人5点2週間)
○DVDの視聴

★交流サロンを利用する

午前9時～午後7時(火曜日を除く)
予約不要。無料。
コピー機あります。(白黒のみ・有料)

★喫茶ぱーとなー

午前10時～午後5時(火曜定休)
(ラストオーダー4時30分)

開所時間：午前9時～午後10時

休所日：毎週火曜日

年末年始の休所日

平成29年12月28日(木)～

翌年1月4日(木)まで

保守点検のための臨時休所日

平成30年1月29日(月)

編集つれづれ

今号編集、男性のワークライフバランスや生きづらさを描いたTVドラマが放映されていて、男性も女性も、働き方や役割分担意識を見つめ直すことが求められているのだと実感しました。インタビューでは現役世代の男性の柔軟な考えを伺い、女性側も従来の意識を変えて、さまざまな生き方を受け入れていかねばならないと思いました。

(編集長・おれんじ)

ホームページアドレス

ローズWAM 検索



<http://www.rosewam.city.ibaraki.osaka.jp/>

Twitter



次なる
茨木へ。



茨木には、次がある。



編集・発行

茨木市市民文化部 人権・男女共生課

茨木市立男女共生センターローズWAM

〒567-0882 茨木市元町4番7号

TEL 072-620-9920

駐車場は中央公園地下駐車場(有料)をご利用ください。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この冊子は11,000部作成し、1部当たりの単価は29.43円です。